



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

Raja

ラジェンドラ・K. サブー
1991~1992年度 R I 会長

国際大会

1992. 6. 5 (金) 第224回例会

1. 点 鐘
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「奉仕の理想」
4. 「四つのテスト」唱和
- 5 食 事
6. 会長の時間
7. 幹事報告
8. 各委員会報告
9. 6月セレモニー (誕生日・結婚記念日祝)
10. 卓 話
11. 点 鐘

第223回例会記録

(1992. 5. 29)

会長の時間 濱田 松太郎

皆さん今日は、本日は第223回例会です。日本人のことを「働き蜂」とよく言われますが、本日は「遊びの勧め」というタイトルで話を進めていきたいと思えます。

「働き蜂にさよならを告げ、ゆとりある社会をつくろう」と言われて久しくなるわけですが、働き蜂のお父さんはまだまだ多いはずでありまして、「働く」の反対の言葉は何ですか？ 休むと答えた方は少し働き過ぎかも知れません。「働く」の反対は「遊ぶ」です。サラリーマンの中には、休暇を「仕事をしない時間」と考える人が多いのですが、実際には「仕事以外のことに取り組む時間」を言うのです。

これを真正面からアピールしたのが J R 東海

の「日本を休もう」キャンペーンでありまして、「働くことは本当に上手、でも休む方はどうでしょうか。」、そうは言っても、なかなかどうしてできるものはないですよ、という二の足を踏むのが、僕を含めて全国ロータリアンの思いではないでしょうか。事実ロータリアンは特に忙しい方の集りのようですから・・・。

本日は「働き蜂よさようなら」をテーマに、「遊びの勧め」ということに触れましたが、要はゆとりとゆとりの時間をつくりながら、大いにロータリーをエンジョイしたいものだと思います。

次は、ロータリー財団75秒、第4週に移ります。

「開発途上国のロータリー・クラブ合同プロジェクトを提唱」というタイトルです。

殆どのロータリアンは、国際奉仕プロジェクトと聞くと、先進国の人々が開発途上国の人々を援助するプロジェクトと思ひ込みます。

しかし、ロータリーでは人間のニーズを見つけることが決定的要素であり、奉仕しようという願望の共通のきずななのです。開発途上国の二つのロータリー・クラブがこのようなニーズを見つけました。そして、奉仕したいと思えました。ガーナのアクラ西ロータリー・クラブとインドのカタック・ロータリー・クラブは、力を合わせてガーナに四つのアイ・キャンプをつくりました。ガーナには全人口に対し眼科医が4人しかいません。アクラ西ロータリー・クラブのロータリアンは、キャンプ設営のため米貨

32,000ドル以上を寄付し、カタック・クラブは14,000ドル以上寄付しました。両クラブは、給与やキャンプ設営費のためでなく、医薬品を供給するために、米貨15,000ドルを上回るロータリー財団同額補助金を申請し、授与されました。

1991年6月にインドの第3,260地区の財団援助のロータリー・ボランティア医師6名から成るチームが、ガーナのアイ・キャンプで2週間過ごし、さらにシェラレオネのロータリー提唱のキャンプで2週間過ごしました。そのときチームは10,583人の患者を治療して、408件ののぼる手術を行い、200人以上の人に光を取り戻させました。ロータリー・ボランティア・チームのリーダー、K. C. マージナル氏(カタック・ロータリー・クラブ元会長)は、財団に次のような手紙を寄せました。

「光を取り戻した患者は、ロータリーへ感謝しながら歌ったり、踊ったりしました。3人の子どもの場合、特に満足していただきました。

生後4ヶ月、3歳、6歳の子どもたちで、母親は18歳でした。全員生れながらにして全盲でした。」

幹事報告 鈴木正敏

1. 例会変更通知

- ・西部RC 6月30日 19:00～
ホテル・ニューサイト
- ・佐土原RC 6月19日 12:30～
清 忠寿アトリエ訪問(新木)

2. 認証状傳達式の案内

- ・鹿児島県 高山ロータリー・クラブ
6月28日(日) 12:00～

出席報告 委員長代理 岩切正司

会 員 数	17名
欠 席 者 数	2名
H C 出席者数	15名
出 席 率	88.24%
欠 席 者 名	井下・池田(美)

次年度幹事より

藤 堂 孝 一

今晚、19:30より、この例会場で理事会を開きますので、全員のご出席をお願いします。

次年度方針について

会長エレクト 岩 切 正 司

私たちのクラブでは、何といても会員増強が一番の課題であると考えます。歴代の会長や会員の皆さんが目標とされた会員20名突破の実現に、具体的な行動計画を立てて全力を傾注していきたいと思っています。

次に、例会の食事の時間を25分ぐらいは欲しいと思います。ゆっくり食事をしながら、いろいろと話し合うことが大事だと考えるからです。そのためには、食事のメニューの検討が必要ですね。食事の内容を、15分程度はかかって食べ終るようなものにしてはどうでしょうか。もちろん予算面の措置を伴いますが。

また、例会での会長の時間はできるだけ短くし、全会員が参加できるような発言の場にしたと思います。これは、先日の地区協議会の折りに宮崎市市内5クラブの次期会長と雑談した時、どの会長も同じ意見でした。

4番目は、当クラブの支出で大きなウエイトを占めている、クラブ週報印刷費の節減です。少人数のクラブの割には、週報にお金がかかり過ぎるようです。この際思い切って簡素化しコストダウンを図り、余った予算は例会会費に回すようにしたらよいと思います。

例会がつまらないから欠席する、という人が出ないように、もっと楽しい例会に、心から話し合える例会にしたいと考えます。

今夜の理事会で、細部については協議していただきたいと思いますので、次年度クラブ運営方針の概要だけを申し上げます。